

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第23週 (6/6-6/12) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		23週	22週	21週	20週
上段:患者数	小児科	18	18	18	18
下段:定点当たりの患者数	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/6-6/12	5/30-6/5	5/23-5/29	5/16-5/22	5/30-6/5
			23週	22週	21週	20週	22週
小児科	RSウイルス感染症		0	1	0	1	3
	咽頭結膜熱	→	16	16	21	10	106
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	85	60	60	40	550
	感染性胃腸炎		148	146	146	119	744
	水痘		16	9	16	4	59
	手足口病		5	3	1	0	22
	伝染性紅斑		5	2	6	2	39
	突発性発しん		21	19	23	15	88
	百日咳		0	0	1	0	1
	ヘルパンギーナ		2	4	0	1	19
	流行性耳下腺炎		10	20	11	8	193
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	1	0	1	38
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	◎	9	2	7	7	17
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	1	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	4
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1	0	0	0	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	腸管性出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	60歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	画像診断等	梅毒	女性	80歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査				

・第23週は、結核6件(112)、腸管出血性大腸菌感染症2件(5)、急性脳炎1件(19)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(19)、梅毒2件(12)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

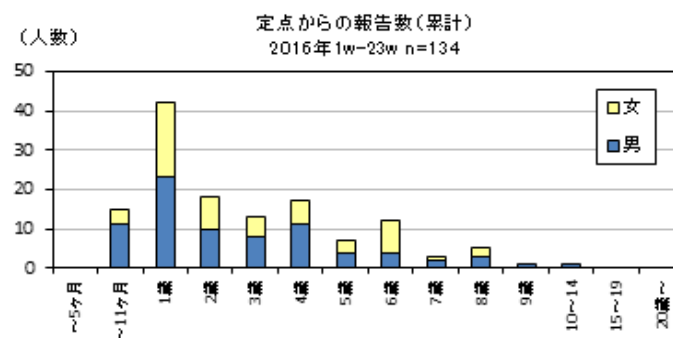
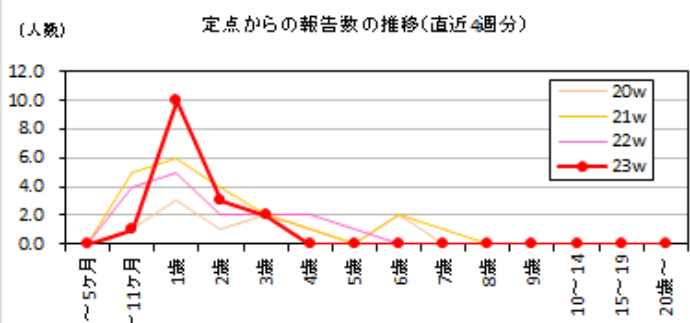
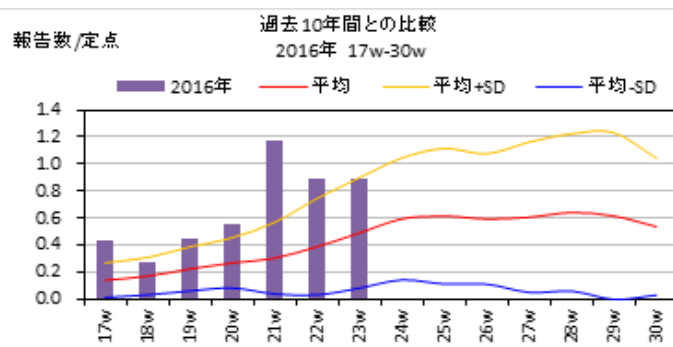
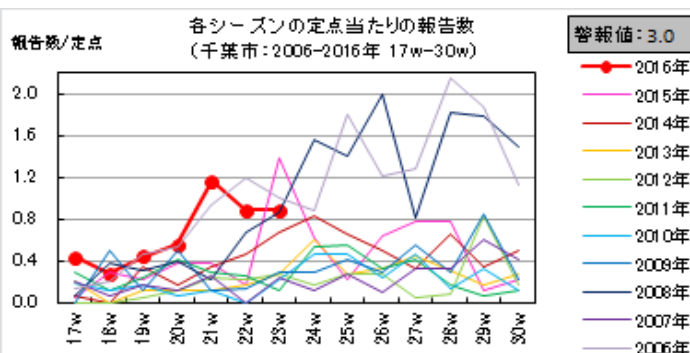
定点当たり報告数 第23週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週から横ばいで0.89のままとなった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週から増加し4.72となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜流行性角結膜炎＞前週から増加し1.80となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

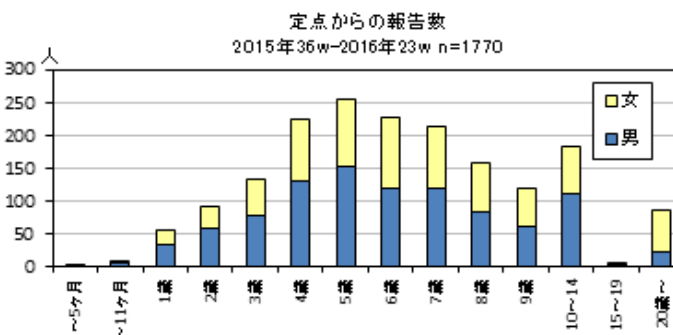
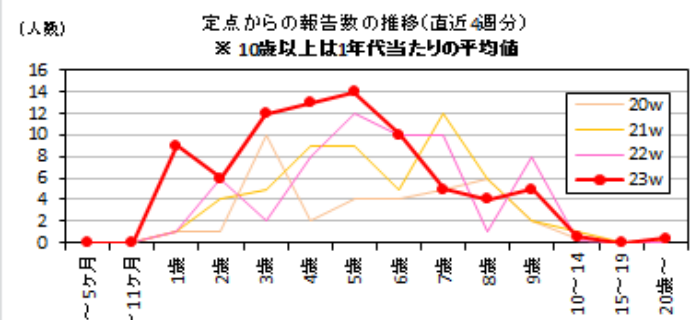
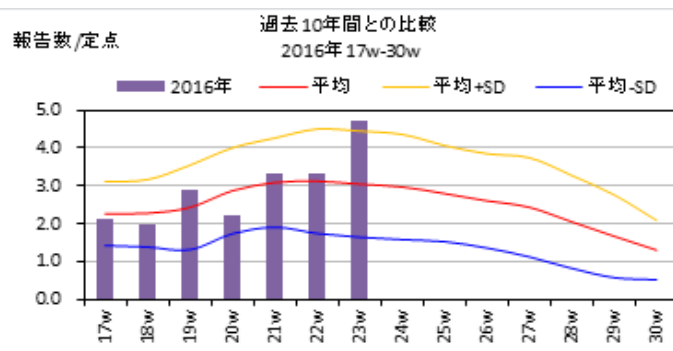
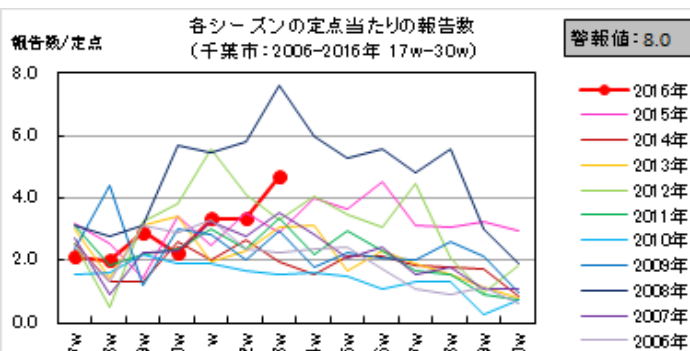
＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第22週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、島根県、佐賀県、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の第23週は前週から横ばいで0.89のままとりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。また、1歳の発生報告数が過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(2.0/定点)で最多で、同区の6か月から3歳で発生報告がありました。2016年第1週から第23週までの累積報告数(n=134)によると、性別では男性が58.2%(78名)、女性が41.8%(56名)で、年齢階級別では1歳(31.3%:42名)、2歳(13.4%:18名)、4歳(12.7%:17名)の順に多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第22週は過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、山形県、北海道、長野県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第23週は前週から増加し4.72となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(7.5/定点)で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第23週までの累積報告数(n=1770)によると、性別では男性が55.8%(988名)、女性が44.2%(782名)で、年齢階級別では5歳(14.52%:257名)、6歳(12.82%:227名)、4歳(12.77%:226名)の順に多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第22週は過去9年の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっています。都道府県別では、熊本県、宮崎県、神奈川県に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第23週は前週から増加し1.80となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、若葉区(5.0/定点)で最多で、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第23週までの累積報告数(n=83)によると、性別では男性が45.8%(38名)、女性が54.2%(45名)で、年齢階級別では30歳代(25.3%:21名)、50歳代(10.8%:9名)、40歳代(9.6%:8名)の順に多くなっています。

